

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成31年4月18日(2019.4.18)

【公開番号】特開2017-181700(P2017-181700A)

【公開日】平成29年10月5日(2017.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2017-038

【出願番号】特願2016-67060(P2016-67060)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/1333 (2006.01)

G 0 9 F 9/00 (2006.01)

G 0 9 F 9/30 (2006.01)

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/1333

G 0 9 F 9/00 3 1 3

G 0 9 F 9/00 3 2 4

G 0 9 F 9/30 3 0 8

G 0 2 B 5/30

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月4日(2019.3.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 6】

図 2 4 に示される液晶表示装置 9 8 2 に備えられる偏光板 9 8 6 に備えられる偏光フィルムが生産される場合も、偏光フィルム用のフィルム部材に延伸加工が行われ、延伸加工が行われた偏光フィルム用のフィルム部材が切断され、偏光フィルムが得られる。偏光板 9 8 6 に備えられる偏光フィルムは、延伸加工が行われた方向に応じた吸収軸方向 9 9 0 に延びる吸収軸を有し、吸収軸方向 9 9 0 と垂直をなす方向に圧縮性の残留応力を有する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 4】

液晶セル 1 0 8 a の他方の主面 1 4 6 a に貼り付けられる偏光板においても、吸収軸方向から傾斜した方向に伸びる辺に沿う周縁部と液晶セル 1 0 8 a の他方の主面 1 4 6 a との間に粘着剤が配置されず、当該周縁部が液晶セル 1 0 8 a の他方の主面 1 4 6 a に固定されず、当該周縁部の両端にある角部が液晶セル 1 0 8 a の他方の主面 1 4 6 a に固定されない。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 7 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0178】

しかし、偏光板 112 i においては、周縁部 188 i および周縁部 190 i の各々が液晶セル 108 a の他方の主面 146 a に固定されず自由になっており、熱衝撃が加えられた場合に周縁部 188 i および周縁部 190 i の各々に加わる応力が軽減されている。また、角部 194 i が液晶セル 108 a の他方の主面 146 a に固定されず自由になっており、角部 194 i に加わる応力が軽減されている。これにより、熱衝撃が加えられた場合にクラックが発生しやすい周縁部 188 i にクラックが発生することが抑制される。また、熱衝撃が加えられた場合にクラックが特に発生しやすい周縁部 190 i にクラックが発生することが抑制される。また、熱衝撃が加えられた場合にクラックが極めて発生しやすい角部 194 i にクラックが発生することが抑制される。このため、熱衝撃試験中または使用中に加わる熱衝撃により偏光板 112 i にクラックが発生することが抑制される。角部 194 i が丸められていることは、角部 194 i にクラックが発生することをさらに抑制する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0183

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0183】

偏光板 110 j は、図 18 に示されるように、実施の形態 1 の偏光板 110 a と同様に、液晶表示装置 100 j の幅方向と 0° をなす吸収軸方向 150 j に伸びる吸収軸および液晶表示装置 100 j の幅方向と 90° をなす遅相軸方向 152 j に伸びる遅相軸を有する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0190

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0190】

周縁部 206 j の全体は、液晶セル 108 j の他方の主面 146 j と対向する領域からはみ出す。これにより、液晶セル 108 j の 他方の主面 146 j に対向する領域において偏光板 112 j が粘着剤により液晶セル 108 j の 他方の主面 146 j に貼り付けられた場合においても、周縁部 202 j が粘着剤により液晶セル 108 j の 他方の主面 146 j に固定されることがなくなる。